

『源氏物語』「桐壺」を用いた古文×英語の教科横断型授業

土屋 進一

はじめに

新学習指導要領では、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成の一つについて、言語活動を通じた読解力や語彙力を含む言語能力の育成を掲げている。

しかし、「教科等横断的な視点」をどのように具体的に授業の中に取り入れたらよいか、頭を悩ませている先生方は多いのではないだろうか。

本稿では、『源氏物語』「桐壺」の原文と2つの英訳の比較による教科等横断的な視点を取り入れた授業についてレポートしたいと思う。

1. 本授業における育成を目指す資質・能力(目的)

(1) 資質・能力

読み取った情報を生徒が既にもっている知識を駆使し、より豊かで効果的な表現になるよう工夫できる思考力・判断力・表現力を育成する。

(2) 工夫・留意点

英語と現代日本語、古典を比較することで、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知る。また、言語と文化を統合的に学び、理解を深めようとする態度を育成する。

(3) 達成度評価の方法

生徒が作成した源氏物語(桐壺)の冒頭部分の英訳がALTに通じるかどうか。

2. 授業の流れ

(1) Warm-up

まず Warm-up として、Word Definition Game を行った。Word Definition Game とは、筆者が毎回、授業の冒頭で行っているペア活動である。生徒はペア(Person A と Person B)になり、Person A は黒板が見える状態、Person B は黒板が見えない状態になる。そして、教師が示した単語(ここでは「宮中(Kyuchu)」)を Person A が Person B に英語

で伝わるように説明する。これは、英語を英語で理解し、聞く力と話す力のつく活動であるとともに、本時の源氏物語の内容理解への助けにもなっている。ペア活動が終わると、教師は“How did you explain?”と質問をし、生徒独自の英語での説明を引き出す。その後、教師がモデルとなる定義(the royal court of an empire where the Emperor's court attendants used to live)を提示する。役割を交代し、今度は Person B が Person A に、ある単語=帝(Mikado)を説明する。ペア活動が終わると、先ほどと同様に生徒から発話の再現を引き出し、モデルとなる定義(a former title of the emperors of Japan during a certain period)を示し、リピート練習を行った。

(2) Small Talk

次に、英語教師と国語教師による Small Talk を次のように「英語で」行った。

土屋：Today we are working on *The Tale of Genji* in English. Talking of *The Tale of Genji*, it is translated all over the world. Why do you think it is so attractive to people from other countries?

中澤：Well, it is considered to be the first world's modern novel and one of the most difficult books to read and translate.

土屋：I see. Why do you think *The Tale of Genji* is difficult to read?

中澤：Well, because there are so many characters that some people can't remember all the characters. Also, there are so many translations which have its own beauty and style in accordance with each individual culture.

土屋：That's right. Can you give me an example?

中澤：Yes. For example, “やんごとなき” or “時めき” are difficult to translate in English, Mr. Tsuchiya?

土屋：Exactly. Let's think about them together in this lesson.

このように、英語教師と国語教師が「英語で」話すモデルを示すことで、教室が英語を使用言語とする雰囲気となった。これも英語の他教科との協働授業の効用の一つであろう。

(3) 背景知識 Quiz

次に、古文に関する背景知識 Quiz を英語で行った。英語で行うことで、源氏物語の英訳を読む準備にもなっている。

Q1. Which is the best translation of “御時(おほむとき)”? 《答えは③》

- ① reign of a king of Japan
- ② reign of a queen of Japan
- ③ reign of an emperor of Japan

Q2. Which is the best translation of “げらふ” in this passage? 《答えは①》

- ① lesser ladies
- ② lesser men
- ③ lesser pandas

Q3. Which is the best translation of “女御”? 《答えは①》

- ① the first rank lady court attendant
- ② the second rank lady court attendant
- ③ the third rank lady court attendant

Q4. Which is the best translation of “更衣”? 《答えは②》

- ① changing one's clothes
- ② the second rank lady court attendant
- ③ the third rank lady court attendant

Q5. Which is the best translation of “やんごとなき”? 《答えは③》

- ① stop
- ② novel
- ③ noble

Q6. Which is the best translation of “時めき”? 《答えは②》

- ① love someone
- ② be loved by

③ be excited

Q7. Which is not the best translation of “めざましきもの”? 《答えは③》

- ① unpleasant
- ② disagreeable
- ③ dismissed

(4) 『源氏物語』 「桐壺」の原文と英訳を比較し読む

【原文】

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひ給ひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。はじめより我はと思ひ上がり給へる御方方、めざましきものに、おとしめそねみ給ふ。同じほど、それより下臈の更衣たちは、まして安からず。

【英訳 A】

At the Court of an Emperor (he lived it matters not when) there was among the many gentlewomen of the Wardrobe and Chamber one, who though she was not of very high rank was favoured far beyond all the rest; so that the great ladies of the Palace, each of whom had secretly hoped that she herself would be chosen, looked with scorn and hatred upon the *upstart who had dispelled their dreams. *成り上がり者

【英訳 B】

In a certain reign there was a lady not of the first rank whom the emperor loved more than any of the others. The grand ladies with high ambitions thought her a *presumptuous upstart, and lesser ladies were still more resentful.

*おこがましい(失礼で越権行為をする)

(5) グループワーク

まず、原文・英訳 A・英訳 B を個人で読み、その後、共通点や相違点など、気づいたことをグループで共有した。生徒は、2つの点に気づいた。1つめは、英訳 A のほうが英訳 B よりも長いこと、2つめは、敬語の訳出の難しさについてである。さらに、英語と古典の教師による気づきも次のように示し、教師同士のインタラクシオンを生徒に見せた。

(6) 教員の気づきを提示

【気づき①】

「いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふ」の「時めき」の英訳が訳者によって異なっている。

【英訳 A】 受動態

one, who though she was not of very high rank **was favoured** far beyond all the rest;

【英訳 B】 能動態

a lady not of the first rank whom the emperor **loved** more than any of the others.

【気づき②】

文化的な背景を説明すると英文が冗長となってしまうため、簡潔な英文にし、あえて英訳されていない部分がある。

【英訳 B】

いづれの御時にか

→ In a certain reign

女御、更衣あまた候ひ給ひける中に、

→ 英訳されていない

いとやむごとなき際にはあらぬが、

→ there was a lady not of the first rank

(7) オリジナル英訳を作る

上記(4)~(6)のプロセスをもとに、今度は、生徒自らがオリジナルの英訳作りに挑戦した。英訳作成にあたっての状況・場面・目的は、次の通りである。

(状況)

あなたはオーストラリアにホームステイをしている高校生です。

(場面)

ホストファミリーに源氏物語の冒頭部分について聞かれました。

(目的)

わかりやすく源氏物語冒頭部分を英語で説明します。

(8) オリジナル英訳の共有

Google クラスルームの課題を使用し、英訳ができた生徒は提出するよう促した。授業の残り時間で、数名の英訳をスクリーンに投影し、よい点や工夫した点を教師が講評し、授業を終えた。

3. 生徒の振り返りからの考察

生徒の振り返りシートの記述から、この授業の実施の意図は概ね伝わったと思われる。生徒のコメントの1つを以下に挙げておく。

「英語という異なる言語を通すことで、母国語である日本語(古語)の見方が広がり、表現方法の違いなど新たな発見がありました。それによって古文での意味の解釈の仕方に対する理解が深まりました」

このことは文科省が深い学びの鍵として掲げる「見方・考え方」と合致しているのではないだろうか。

4. おわりに

グローバルに活躍するには、その言葉が話されている国や地域の文化を理解したうえで言語を話す能力が求められる。翻訳アプリが非常に便利になり、その精度もますます高まってきた現在、言語間の言葉の変換であれば簡単にできるようになった。しかし、お互いが本当にわかり合うためには、それぞれの文化を尊重し、理解することが重要である。言語を学ぶことは、言葉の裏側にある言外の意味や言語に変換できない部分を体験・実践を通して身につけていくことが必要であろう。そうした技能を身につけることが、真のコミュニケーション能力の育成であり、このような授業が一つのモデルになるのではないだろうか。

謝 辞

本授業を行うにあたり、本校国語科の中澤美智子先生には、授業当日の指導のみならず、指導案作成から授業実施に至るまでの打合せにおいても多大なご協力をいただきました。

ここに心より感謝申し上げます。

参考文献

土屋進一(2022). 「他教科の学習内容を英語で学ぶ授業で、生徒の思考を深め、複眼的な視野を養う」『VIEW next 高校版』2022年度4月号, ベネッセ教育総合研究所, pp.40-43. (VIEW next ONLINE)

<https://view-next.benesse.jp/view/article05116/>